＜様式２＞

令和３年度　さいたま市立七里中学校　学校関係者評価書

さいたま市立　七里中　学校
学校関係者評価委員長　北　川　　康　世

１　学校関係者評価の実施体制
（１）構成人数　　校長　教頭　教務主任　学校地域連携コーディネーター　学校関係者評価委員９名
（２）実施回数　　３回（５月１８日、１０月２２日、２月２４日）
＊５月１８日、２月２４日は新型コロナウィルス感染症対策のため紙面会議

２　学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）
（１）教育活動、チャレンジスクールについて
・新型コロナにより各種行事が変更となり、大変だった。
・子どもたちのＳＮＳによるコロナに対する誹謗中傷は学校としても注意が必要
・チャレンジスクールは、子どもたちの時間を無駄にしないためにも生徒の課題を前もって把握し、理解を深める活動にしたい。
・チャレンジスクールの実施可数が減少し残念。来年度は計画通り実施したい。
（２）学校評価、教職員・保護者・生徒アンケートについて
・アンケートの回収率が低い。周知の方法や回収率を上げる工夫が必要
・コロナの影響下においては比較的部活動、学校行事で活動できた方なのではないか。
・学習規律や家庭学習の定着は、どの学校でも課題の一つである。その課題の解決のためには、まず何よりも授業の充実が大切である。引き続き研修等を通じて授業力の向上を図りたい。
・教育相談が充実していて素晴らしい。
（３）その他
・生徒が落ち着いて活動しているように感じます。
・学校行事等が公開できないのは非常に残念。できる限り公開できる方向で検討をしたい。
・地域連携活動をより充実させたい

学校関係者評価を受けた学校の対応

（１）教育活動、チャレンジスクールについて
・引き続きすべての教育活動において感染予防対策を行いつつ、学校行事を含めた教育活動を進める。
・チャレンジスクールは実施時間を検討し、部活動との両立を更に進めるとともに、事前アンケート等を活用し、生徒の課題把握に務める。
（２）学校評価、教職員・保護者・生徒アンケートについて
・各アンケートは、学校だよりをはじめとした各種便りにて周知するとともに、学校安心メールやフォームズを活用した解答方法も検討し回収率の向上を図る。
・「さいたま市ＧＩＧＡスクール構想の実現に向け、ＩＣＴ機器を活用した授業方法の研究を学校課題とした研修を今年度に続き行うとともに、生徒が自主的に学習に取り組めるような教材を導入する。
（３）その他について
・地域連携活動をさらに発展させるために、学校運営協議会等において、具体的な方策を検討していく。
・学校行事は感染予防対策を行いつつ公開できる方法を検討する。また、学校行事を地域とともに開催する。

さいたま市立　七里中学校長　　瀬田　俊志